

練習帆船「海王丸」の遠洋航海とハワイの船々

個人会員 福富 廉

練習帆船「海王丸」の遠洋航海（横浜港～ハワイ・マウイ島カフルイ港）に海洋研修生として参加してきました。ご存知かと思いますが、「海王丸」は、その建造予算の一部が国民の寄付でまかなわれ、当初は第1種船（外航客船）として建造され（2003年から第3種船に変更）、毎年、国内／国外の体験航海が実施されています。ただし、今回は、出港直前に起きた「日本丸」での転落事故の影響で、出港が1週間延期され、しかも、乗船当日に全航程機走／マスト作業禁止という説明がなされ、登しもう礼も無く、寂しく不運な体験となってしまいました。なお、研修生はカフルイ港までですが、遠洋航海は実習生106名（うち女性9名）を乗せて、そのあと、ホノルル港、ウラジオストック港と回って、6月9日に東京港帰着予定です。

ここでは、その様子の一部と、下船地であったハワイでの船の様子をレポートします。なお、ホノルル港の様子は、池田事務局長の2015年のレポートから変わった点は見られませんでした。

海王丸の遠洋航海トピックス

- (1) 海洋研修生は9名（他1人は帆走無しを聞いて航海断念）、全員がリタイヤ組。うち4名がヨットマン、富山の「海王丸」総帆展帆ボランティアが2名、旅マニアが1名（ピースボート2週の経験者）、他2名という感じでした。
 - (2) 航海は機走なので、ハワイまではほぼ直線航路、高気圧の中心を目指すということで、最初の4日程、低気圧の通過で揺れましたが、あとはほとんど穏やかな航海でした。エンジンの保守のために数日片舷機で7kt程だった以外は約10ktで航走、3週間の予定の内、2週間ちょっとでハワイ海域に到着し、ハワイ島の西側で5日程漂泊するという状況でした。途中、3回程、ブレースを引いてタックの変更（ヤード回し）が行われましたが、それだけが帆船の作業でした。
 - (3) 現時点で事故の原因は公表されておらず、新たな安全対策が検討されているようで、今後の帆走再開は未定です。（ちなみに、横浜と富山の総帆展帆は従来通りで行われているようです。）
 - (4) 帆走はありませんでしたが、長い航海なので、実習状況は良くわかりました。日付変更線通過の儀式や運動会他、トローリングもありました。また、クジラの出現の他、イルカが船首付近を並走する機会もありました。
 - (5) 今回、知ったのは、現在は3級海技士になるために多様な経路があることでした。昔は、商船大か商船高専しかなかったと思いますが、現在は、他に、
 - ①海上技術短大 ⇒ 海技大 (専修コース)
 - ②一般大学 ⇒ 船会社就職 ⇒ 海技大 (専攻コース)
 - ③海上技術学校 ⇒ 海技大 (航海コース)等がありました。
- ②は郵船、商船三井、川汽の3社から、各数名ずつのメンバーがいました。

(1) 「海王丸」



出港前日の大さん橋 VOLENDAM と海王丸



ロイヤル・ウィングが UW 旗「ご安航を祈る」を揚げて戻ってきました

出港時の様子（栈橋からは家人が撮影）



ベイブリッジの通過



浦賀水道では、
NYK ADONIS が左側
から海王丸を追い越
し、右側に前を横切
ったところでパイロ
ットを下すという珍
しい場面に遭遇



航海風景



日付変更線付近の穏やかな海



雨中



六分儀による天測実習風景



珍しい赤線入り肩章の船医（右）
他に通信長（緑線）も（左は3席3等航海士）



太平洋上で投下前の気象ブイ
（全航程で3回実施とか）



マウイ島と三日月形のコロキニ島（右下）の間の狭いところを通過



ハワイ島西方海域での漂泊時の表示
 左側が黒球2個（日中）（錨泊時は1個）
 右側が赤色燈2個（夜間）



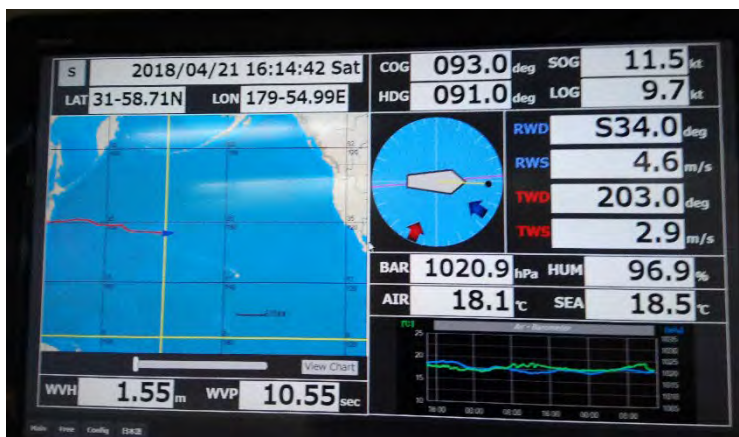
操練での救命艇の降下



船首を並走するイルカの群れ



洋上での剣道の稽古



日付変更線通過直前のログ

日付変更線通過時はクス玉
 割りと寸劇でお祝い、
 翌日は特別ディナー等有り